

98

JICA
701
29.5
MIT
LIBRARY

JICA LIBRARY



1096958(2)

23562

アルゼンティン包装技術プログラム

巡回指導調査団報告書

平成3年(1991)3月

国際協力事業団



国際協力事業団

23562

序 文

本プロジェクトは、亜国の国内消費及び輸出競争力を高めるため、INTI（国立工業技術院）内にパッケージングセンターを設立し、国内消費者向け包装と輸出包装を総合的に実施できる人材を養成すべく、1989年3月31日より4年間の技術協力を実施しているものである。

本報告書は、亜側関係者とプロジェクト実施計画及びワークショップ建設計画につき協議を行った巡回指導調査団の調査結果を取りまとめたものである。

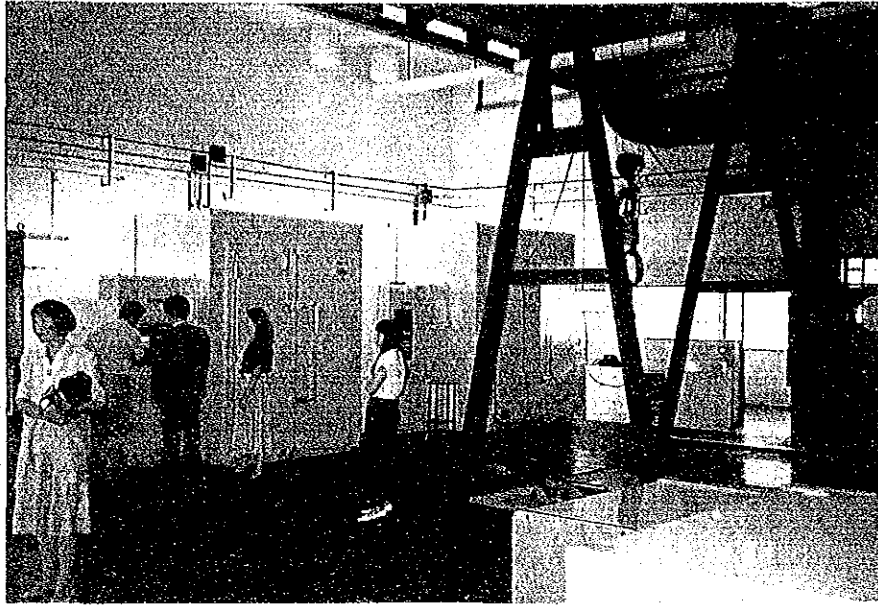
ここに、本調査にあたりご協力をいただいた関係各位に対し深く感謝し、今後も引き続きご指導、ご鞭撻いただくようお願い申し上げます次第である。

平成3年3月

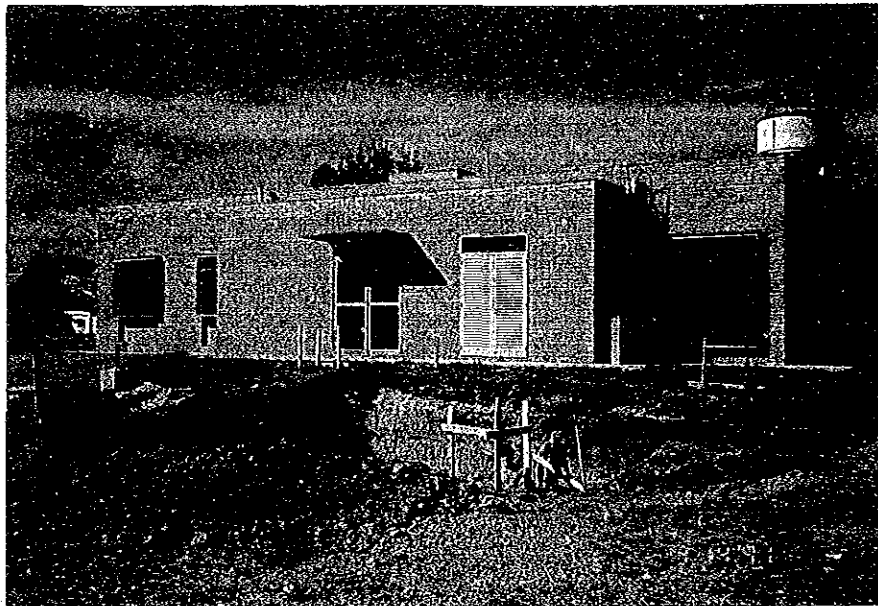
国際協力事業団

鉦工業開発協力部

部長 山崎宗重



仮ラボ（機械棟内部）



モジュールII建屋建設現場

目 次

1. 巡回指導調査団の派遣	1
(1) 本プロジェクトの経緯	1
(2) 調査団派遣の目的	2
(3) 調査団の構成	2
(4) 調査日程	2
(5) 調査項目と対処方針	3
(6) 主要面談者	4
2. 調査結果要約	5
3. ワークショップ（ラボ）	7
4. 予算・組織	11
5. 技術協力計画	11

1. 巡回指導調査団の派遣

(1) 本プロジェクトの経緯

アルゼンティンは、対外累積債務を多額に抱えているため輸出促進に力を入れている。しかしながら、輸出拡大に最も必要とされるアルゼンティン産商品の包装（パッケージング）技術は未熟である。特に、輸出品の包装は、未だ木製品（木箱）が主流を占め、個々の商品包装についても世界的な主流であるレトルトパック、プラスチックパック等が普及しておらず、著しく立ち遅れているのが現状である。このため、同国政府は、国内消費を促進し、その輸出競争力を高めるために、INTI（国立工業技術院）内にパッケージングセンターを設立し、国内消費者向け包装と輸出包装を総合的に実施できる人材養成を行うべく、この分野では世界的に最先端の技術を有する我が国に対してプロジェクト方式の技術協力を要請してきた。

これに対して、我が国は、1987年10月に事前調査団を、1988年9月に長期調査員をそれぞれ派遣し、その調査結果に基づいて1989年3月に実施協議調査団を派遣、相手国実施機関（INTI）と、協力内容、期間、双方が採るべき措置等について協議し、プロジェクト実施計画を策定、R/Dを締結し、4年間の協力を開始した。

基本的な協力内容としては、技術協力を工程別に4つのモジュールに分けて実施することとなった。すなわち、

module-1	製品設計・開発	
module-2	包装技術（食品包装）	
module-3	品質管理	
module-4	輸送・保管・荷役	である。

R/D署名後、2年近くが経過しているが、この間、1988年に1名、1989年には2名のカウンターパートを受入れ、1990年3月2日より、リーダー、食品包装技術分野の2名の長期専門家を派遣し、本格的な技術移転の開始を図った。また、機材供与については、現在までに、module-3、4の分野の機材のほとんどを既に輸送済みであり、module-2の機材も現在購送中である。

しかしながら、「ア」側負担にて建設予定のワークショップが「ア」国の財政事情により着工されず、技術移転計画スケジュールに支障を来し得ない状況が考えられた。

こうした状況を確認するために、昨年10月に計画打合せ調査団を派遣し「ア」側と協議を行ったところ、「ア」側としては下記のような方法によってワークショップの建設を行うとのことであった。

(1) M-II（プラント）部分

アルゼンティン包装協会が寄付の形でINTIに寄贈する。

90年11月着工、91年4月末完工予定。

(2) M-III、IV (ラボ) 部分

凍結解除となった政府予算で建設する。

91年1月着工、91年7月末完工予定。

しかしながら、この予定にも遅れが見られ、M-II部分が今年3月4日に着工されるということであり、M-III、IV部分は予算支出のための大統領署名が為されたものの未だ着工されていない。

このため、現在、この間の暫定的な措置として、仮ラボ (機械棟を改修したもの) に輸送済みの機材を設置し技術移転を行っている。

(2) 調査団派遣の目的

本調査団は、遅れているワークショップの建設計画及びプロジェクト実施計画について「ア」側と協議し、ワークショップの早期建設を強く促すとともに、今後の実施計画の見直しを行うことを主要な目的とする。なお、ミニッツの署名、交換は行わない。

(3) 調査団の構成

団長 総括 四釜 嘉総
 国際協力事業団 鉦工業開発協力部 鉦工業開発技術課 課長代理

団員 協力計画 横山 典弘
 通商産業省 生活産業局 文化用品課 課長補佐

建築計画 吉田 清
 (株)エディト建築コンサルタンツ 代表取締役

業務調整 川畑 輝彦
 国際協力事業団 鉦工業開発協力部 鉦工業開発技術課

(4) 調査日程

3月11日 (月)	成田	大使館・JICA事務所との打ち合わせ INTIと協議、外務宗教省、経済省表敬 INTIと協議、大使館、JICA事務所への報告 (注) 本調査団団員4名のうち総括と業務調整の2名は、3月15日にモンテビデオに移動し、別案件であるウルグァイ東方共和国プラスチック試験技術協力事業の実施協議調査を行い、3月25日に帰国。
12日 (火)	→フェイス	
13日 (水)		
14日 (木)		
15日 (金)	フェイス	
16日 (土)	←ロアンジェル	
17日 (日)	ロアンジェル	
18日 (月)	→成田	

(5) 調査項目と対処方針

調査項目	現 状	対 処 方 針
1. 仮ラボの使用状況	(仮ラボ=機械棟) 昨年12月完工(空調は未) 機材据え付けチーム派遣 (91年1~2月)	使用状況、今後の使用計画の確認
2. 本ラボ建設計画の確認	1) 政府予算分 大統領署名により予算支出が認められたとのことであるが、未着工。 2) 民間寄贈分 3月4日に着工されるとの報あり。	今後の建設計画を確認するとともに、建設工期を守ることを強く要求する。
3. 組織図と職員配置状況	「ア」側の合理化路線のためC/P38名中、3名の辞職が決定している。	職員・C/Pの人数・氏名の確認及び、今後の人事政策の確認を行う。
4. 予算措置	1990年度予算 709,000USドル	1991年度予算を確認する。
5. 技術移転状況	仮ラボにて開始している。	技術移転内容・進捗状況の確認
6. 技術移転分野の再検討	R/Dでは4分野 I 製品設計・開発 II 包装技術(食品包装) III 品質管理 IV 輸送・保管・荷役	分野を絞り込む必要性の有無を検討 例) 食品包装に重点、他の分野は簡略化
7. 専門家派遣	(長期) リーダー 派遣中 食品包装 “ (短期) 各モジュール毎に3名の予定	短期専門家派遣の分野・時期の確認
8. 機材供与	モジュールⅢ・Ⅳ: 到着済 モジュールⅡ: 91年4~5月着予定	1) 到着済機材の保管・利用状況の確認 2) 追加要請の有無
9. C/Pの受け入れ	90年度実施予定の4名は日本側予算の都合により来年度に延期。	今後の受け入れ計画の策定を行う。

(6) 主要面談者

(アルゼンティン側)

(1) 経済省工業貿易局

Luis OBEID 工業課長

(2) 外務宗教省国際経済局

Miguel ALMADA 国際協力課長

(3) INTI

Haracio PERERA 副総裁

Marta GALAK 調整官・プラスチック部門総括

Susana SUCATTE 副調整官・紙パルプ部門総括

(日本側)

(1) 日本大使館

藤本 芳 男 特命全権大使

伊藤 昌 輝 公使

菊田 滋 参事官

望月 毅 一等書記官

(2) JICA事務所

長谷川 勝 治 所長

梅谷 重 夫 総務課長

橋本 栄 治 業務第二課長

長町 昭 所員

ファン・カルロス 山本 所員

(3) 専門家

佐藤 喬 亮 チーフアドバイザー

伊丹 宏 食品包装

2. 調査結果要約

本調査団は、3月12日から15日までアルゼンティン国に滞在し、先方実施機関である国立工業技術院（INTI）との間で協議を行い、また、外務宗教省、経済省の要人と会談し、更に、プロジェクトサイトの視察を行った。調査結果概要は以下のとおりである。

(1) 仮ラボ（M-Ⅲ、Ⅳ）の使用状況

機械棟を改修した仮ラボには、大型の機材が搬入され、既に使用が開始されている。ただし、空調はまだ為されていない。仮ラボは、本ラボが完成するまで使用される。

(2) ワークショップ建設計画

1) 民間寄贈分（M-Ⅱ）

民間の基金によって建設されるモジュール2の建屋は既に基礎工事が開始されている。請負業者の計画によると、本年6月いっぱいには完工するとのことである。

2) 政府予算分（M-Ⅲ、Ⅳ）

政府の予算によって建設される予定のモジュール3、4については、経済省より予算支出のために最大限の努力をするとの発言があった。その後、3月15日に予算支出のための大臣署名がなされたとの報告があったが、建設計画については不明。

(3) 予算措置

90年度の予算709,000usドルは既に執行済み。

91年度は745,000usドルが計上されている。

(4) 組織図と職員配置状況

3名程の入れ替えはあったが、全体的な変更はない。

(5) 技術移転状況

搬入済みの機材によって、仮ラボにて開始している。

(6) 今後の技術移転計画

分野を絞り込んで実施することはせず、全分野にわたって、後半の2年間に集中的に短期専門家を派遣する等、当初の計画を履行する。

(7) 専門家派遣

平成3年度は、M-I、II、IVの分野に短期専門家を派遣する。

(8) 機材供与

- 1) M-III、IV 既に、現地到着、搬入済。
- 2) M-II 早期輸送分は現在輸送中、後期輸送分は輸送手続き中。
- 3) 平成3年度分 上記機材を補完する多少の機材を購送する。

(9) カウンターパート受け入れ

平成2年度に実施予定であった4名については、本年6月に実施する旨先方へ伝えた。

平成3年度分は、3～4名受け入れる予定。

(10) その他

- 1) 日本側より調整員の派遣を提案したところ、先方は承諾した。
- 2) 先方より、プロジェクト実施の遅れを勘案して、協力延長の可能性について質問があったが、日本側は、プロジェクトの遅れの責任はアルゼンティン側にあり、現在のところ延長するための材料がない旨伝えた。

3. ワークショップ（ラボ）

ハイパーインフレーションに端を発する亜国政府の財政逼迫により、同政府は経済緊急令を制定し、政府よりの助成金、補助金の支出を凍結した。本件に関する経緯は以下のとおりである。

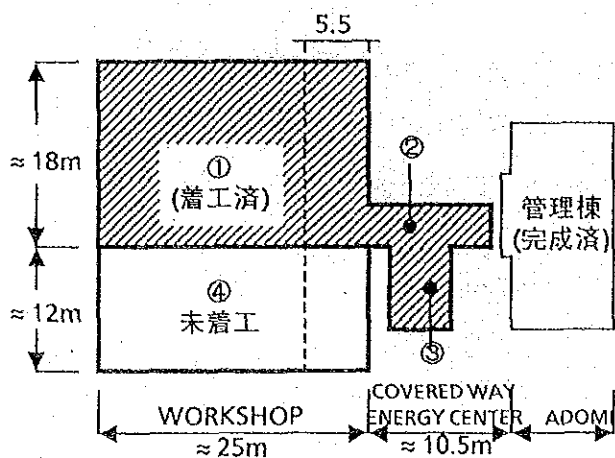
(1) 経済緊急法（第23697法）

1989年9月 1日	国会議決
” 9月15日	大統領署名
” 9月25日	官報告示

による助成金、補助金の中止。

- (2) 1989年11月末、本プロジェクト実験棟建設費用関係予算の執行が大統領令により一時認められ、INTIも入札、業者の選定、契約手続を進めていたが、その後、本件実施は経済緊急法に抵触するとの議論がなされた。
- (3) 1990年2月末、新規の政府関係土木工事を全て停止する大統領令の発布により、本件実施がペンディングとなる。なお、経済緊急法は180日間の期間が更に180日間延期された。
- (4) その後、INTIは実験棟を年内に完成すべく努力するが、とりあえずの措置として実験棟完成までの間、機械部の実験棟の一部を包装プログラム用に提供することとし、必要な改修工事は責任を持って行うこととした。
- (5) 上記の機械棟の改修工業は1990年9月27日に開始された。
- (6) 1990年9月、アルゼンティン国会下院宣言による財源確保のための新法律（案）成る。これは、経済緊急法の適用に基づいて禁止された補助金の解放を宣託したものである。
- その後、昨年（1990年）10月に派遣した計画打合せ調査団と亜側との協議により、前述の建設計画を確認したが、未だ実行段階にないため、今回、新たに、INTI及び民間包装団体の関係者と協議を行い、次のような建設計画を確認した。
- 前回の調査時に確認された建設計画が反古にされたことに鑑みれば、この計画通りに今後のラボ建設が進むとは考えられないが、ラボ建設が基本的に亜国内の問題である以上、日本側としては、建設計画の履行、早期完工を今後も督促し続ける他ないと思われる。

□ ワークショップ建設計画の確認



① PLANTA PILOTO (540 m²) ----- MODULE II

予算：民間援助 US\$ 227,000.-

工事：1991年3月1日着工、6月30日竣工予定、工期4ヶ月
(但し、1ヶ月程度の延期を予想)

② COVERED WAY (30 m²) ----- COMMON

予算：民間援助 US\$ 44,000.-

工事：①と同じ

③ ENERGY CENTER (65 m²) ----- COMMON

予算：民間援助 US\$ 70,000.-

工事：①と同じ

TOTAL 建設予算 US\$ 341,000.- (当初予算はUS\$250,000.-であったが、民間援助団体内で不足分をカバーする。)
M²/単価 US\$ 537/m²

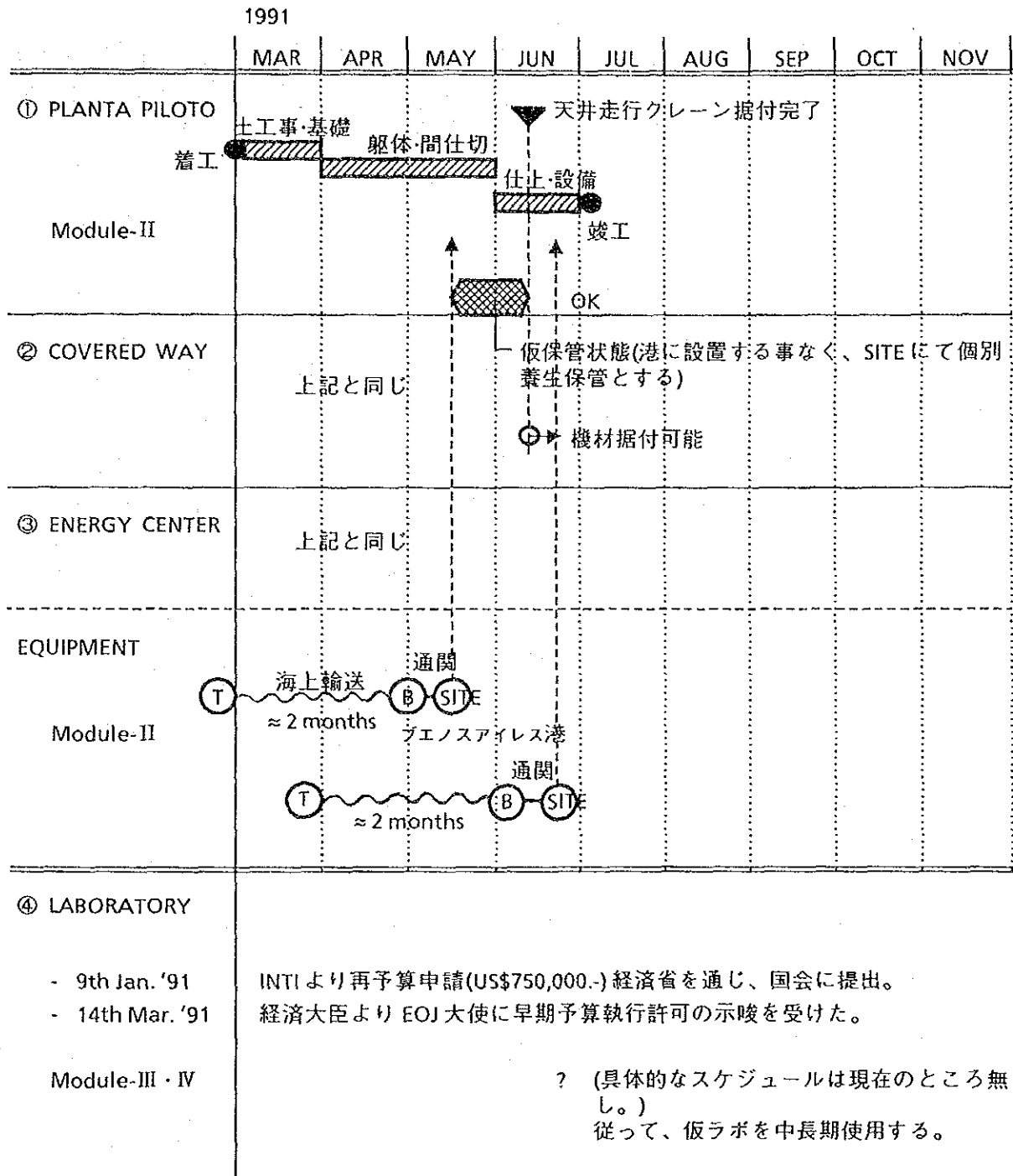
④ LABORATORIO (366 m²) ----- MODULE III・IV

予算：国家予算 US\$ 500,000.- '90年10月大統領令(凍結解除)時の予算
↓
US\$ 750,000.- '90年1月9日 INTIより再予算申請された額

□ 建設スケジュール

以下の PLANTA PILOTO の建設状況を確認した。

確認先：ING. JORGE CROMBERG GERENTE I.E.E.





FUNDACION
DEL ENVASE
Y DEL EMBALAJE

Av. de Mayo 701 - Piso 15
T.E.: 34-6073 / 8445

Buenos Aires, 14 de marzo de 1991

Mr

KIYOSHI YOSHIDA

Hotel Crillon Hab. 607

Santa Fe 796

PRESENTE

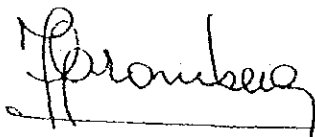
Dear Sir:

As requested, the following are the figures of the building.

Planta piloto	540 m ² *	USD 227.000,-
Cubierta	30 m ²	USD 44.000,-
Sala máquinas	65 m ²	USD 70.000,-

* include articulated pavement.

Yours very truly,


Ing. J. Cromberg

JC/rb

4 . 予 算 ・ 組 織

- (1) 1991年度のINTI予算は、表1のとおりであり、745,000ドルが計上されているが、そのほとんどが人件費に充てられており、運営費が少額であることが問題である。
- (2) 本プロジェクトのINTI組織は表2のとおりであり、最近カウンターパート3名が交替したが、全体的な変更はない。

5 . 技 術 協 力 計 画

今回の調査において、遅れていたプロジェクト実施計画の見直しを行う予定であったが、具体的な見直しは、現地の意向を踏まえて、調査団帰国後に、現地と連絡を取りつつ国内支援委員会と協議し行うこととした。基本的には、協力範囲を狭めるのではなく、全分野にわたって、当初の目的を可能な限り達成すべく、今後の2年間に効果的な短期専門家の派遣を行う等、効率的な技術協力の実施を検討する必要がある。

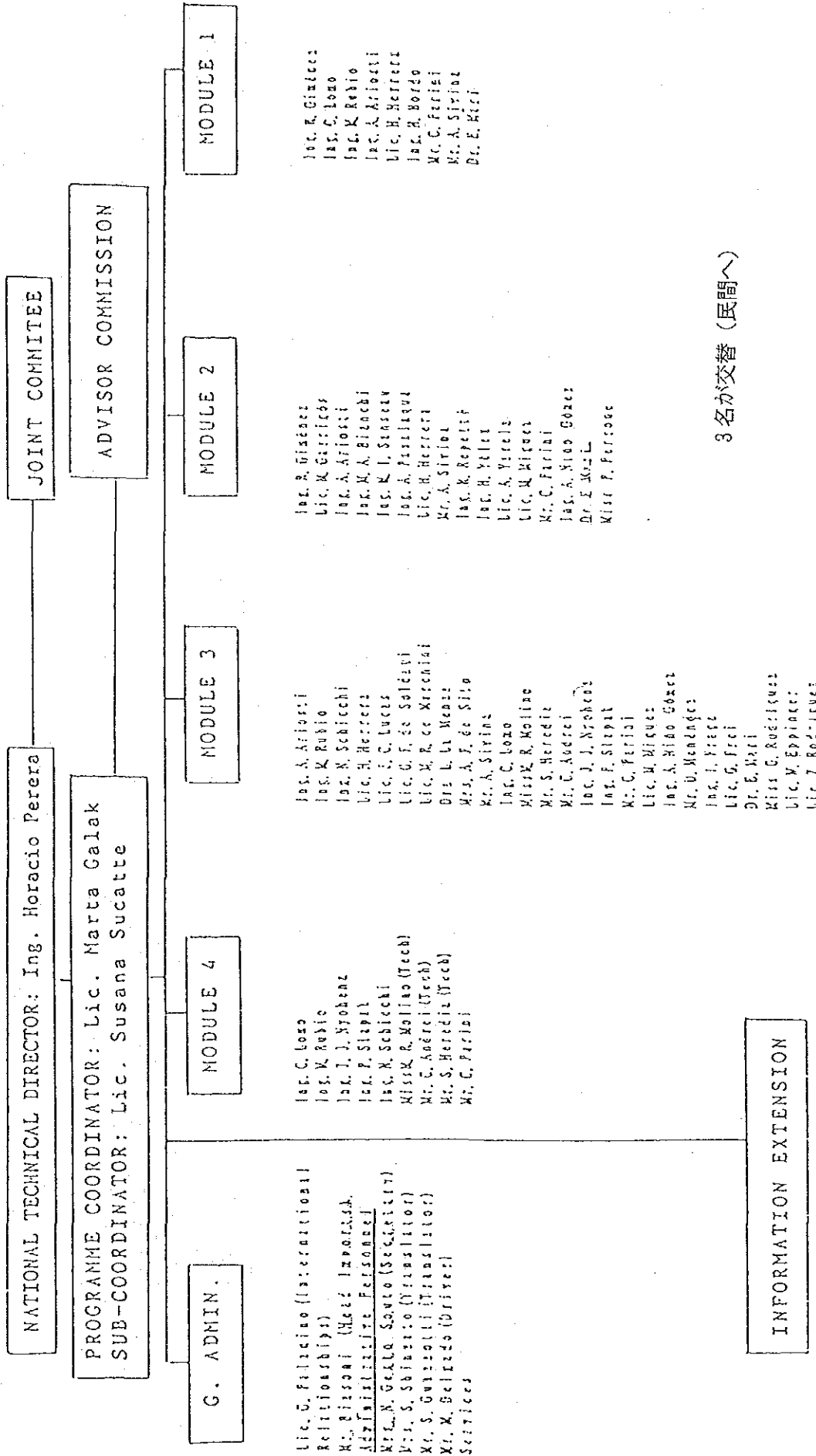
INTI'S BUDGET 1991
FOR THE PACKAGING TECHNOLOGY PROGRAMME

	<u>US\$</u>
TECHNOLOGICAL AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL (Including 43 people/year)	640.000.- (*)
<u>INVESTMENT</u>	
ADAPTATION OF ALTERNATIVE LABORATORY Air-Conditioning and Compressor	10.000.-
PROCESSING LABORATORY INSTALLATION (機材輸送等の経費)	30.000.-
PLASTICS MATERIALS TO OPERATE THE CALENDER MACHINE	30.000.-
OPERATIVE EXPENSES (雑費)	35.000.-
	TOTAL. 745.000.-

(*) Including Salary Increase

表2

ORGANIZATION OF PROGRAMME



Lic. O. Palladino (International Relationships)
 Mr. Bizzoni (Head Import/Exp. Administration Personnel)
 Mr. M. Gualco Sotelo (Secretary)
 Mr. S. Sbrinatti (Translator)
 Mr. S. Gualco Sotelo (Translator)
 Mr. M. Gualco Sotelo (Driver)
 Services

Ing. C. Lazo
 Ing. W. Rubio
 Ing. J. J. Nyobenz
 Ing. P. Slapal
 Ing. M. Sebichechi
 Miss W. R. Molina (Tech)
 Mr. C. Anérel (Tech)
 Mr. S. Heredia (Tech)
 Mr. C. Piribá

Ing. A. Arias
 Ing. W. Rubio
 Ing. M. Sebichechi
 Lic. H. Herrera
 Lic. S. C. Lucas
 Lic. G. F. de Solórzano
 Lic. M. R. de Xeróniz
 Drs. L. de Meaza
 Mrs. A. F. de Silva
 Mr. A. Silvina
 Ing. C. Lazo
 Miss W. R. Molina
 Mr. S. Heredia
 Mr. C. Anérel
 Ing. J. J. Nyobenz
 Ing. F. Slapal
 Mr. C. Piribá
 Lic. M. Niquez
 Ing. A. Nino Gómez
 Mr. V. Mendigoye
 Ing. J. Freije
 Lic. G. Frei
 Dr. E. Hiri
 Miss G. Rodríguez
 Lic. M. Eppinger
 Lic. Z. Rodríguez

Ing. R. Gámez
 Lic. M. Gámez
 Ing. A. Arias
 Ing. M. A. Bianchi
 Ing. M. I. Sotelo
 Ing. A. Pastreque
 Lic. H. Herrera
 Mr. A. Sivini
 Ing. K. Repetit
 Ing. H. Yeltes
 Lic. A. Yeltes
 Lic. M. Niquez
 Mr. C. Piribá
 Ing. A. Nino Gómez
 Dr. E. Hiri
 Miss F. Ferrero

Ing. R. Gámez
 Ing. C. Lazo
 Ing. W. Rubio
 Ing. A. Arias
 Lic. H. Herrera
 Ing. H. Bordo
 Mr. C. Piribá
 Mr. A. Silvina
 Dr. E. Hiri

3名が交替 (民間へ)

ADVISOR COMMISSION

